



バイオマス・タウンで

環境日本一を目指せ

堀田賢逸 議員

バイオマス・タウンの進み具合について

質問 原油高騰により、市民はもとより市財政にも影響が出るのは必須である。影響を少なくするため北欧のようにバイオマスを考えてみてはどうか。

うか。豊富な森林面積を有しているので「木」ペレット等を考えてみてはどうか。雇用対策にもつながる「バイオマス・ニッポン総合戦略」に乗り、バイオマス・タウンに応募し、そして環境都市日本一を目指すべきではないか。

答弁 石油類の高騰だが灯油は27%高騰し、市においても7月までに5,900万、19%の増額となっている。ペレットに関しては、地域循環という観点から有意義な施策と思うが検討したい。バイオマス・タウンは、今年中

りんごの放任園について

質問 3月議会で「りんごの放任園」について質問したが、その取り組みの結果を伺いたい。放任園対策として4項目を提案し、また、栽培を継続させるための支援策5点の提

案を盛った「果樹産地構造改革計画」の進捗状況を伺いたい。
答弁 果樹遊休農地利活用検討チームでさまざまな可能性について検討しているが、高齢者や後継者不足の現状下において、対策は難しい。今年からは、フルーツライン沿いに景観保全を目的とした取り組みを実施する。遊休農地拡大防止に向けて、現状に対応した対策が必要と考え、多様な利活用の提案対策を講じるよう検討したい。



総合計画に

市民の声が反映されるか

播磨博一 議員

総合計画の策定について

質問 市ではこの先10年間の市政運営の基本指針となる横手市総合計画を策定中であるが、計画の概要と作業の進捗状況を伺いたい。計画の中に市民アンケートの結果や公募

委員の意見など、市民の声はどう反映されるのか。
答弁 総合計画は当市の将来像とまちづくりの指針である基本構想と、構想で示した基本目標を達成するための施策の大綱を示す基本計画、及び計画を推進するための実施計画で構成されている。この計

画は合併直後のためこれまでの市町村の通常手段と違い、合併議決の際に示された新市建設計画をベースに策定作業を進めている。公募委員23名と関係部局の職員による策定委員会を組織し6つの部会で検討している。今後中間案を提示したうえ、パブリックコ

火災警報器の設置について

メントを実施し広く市民の声をいただきながらよりよい計画にしていきたい。

質問 消防法の改正により、新築住宅は平成18年6月1日から、既存の住宅は市の条例により平成23年5月31日まで、家庭用火災警報器の設置が義務付けられた。この周知をいかにするのか。
また、高齢者世帯への補助等の考えはないか。

答弁 駆け込み設置とならな

いよう市報、ホームページへの掲載、消防団や火災予防組合などを通じ、市民への周知に努めている。
一人暮らし高齢者等については、設置は進んでいないものと推測している。火災警報器の設置は命に関わることで、早期の設置を促すが、機器は6千円前後であり直接購入していた、だくことになる。設置や購入については相談を受ける。

その他の質問事項
・AED講習について
・横手市民総合災害補償について